

第21回台湾泌尿器科医国際交流会

The 21st Annual Meeting of the International Urological Conference of Taiwan

竹内 尚史

Hisashi TAKEUCHI

東京医科大学泌尿器科学講座

この度、東京医科大学医学会の御援助をいただき当教室より4名が、2011年8月12日から13日まで台南（台湾）で開催された第21回台湾泌尿器科医国際交流会に参加させていただきました。私自身は、当学会はもちろん国際学会に初めての参加でした。

当学会は台湾、日本両国の泌尿器科医師の交流および研鑽を目的に毎年台湾の各都市で開催されており、今回の会場になったのは台南の National Cheng Kung University（国立成功大学）です。我々は空港に到着後、日本の参加者一同にて台北から台南へ新幹線で移動しました。日本からの参加者は、各大学より多数参加しており総勢30名程となっていました。国際学会ではありますが日本の参加者はツアー形式にて行動をともにしており、また13日に行われた夕食会も含め日本の泌尿器科医師間での交流会にもなっていました。台湾は沖縄とほぼ緯度より更に南にあり、しかもその中でも南に位置する台南は8月ということもあり大変暑い気候となっていました。新幹線からの移動中は車窓を眺めながら異国情緒を感じることができ楽しいものでした。

初日はホテル到着後、夕食会の会場へと移動しま

した。夕食会では日本からの各大学の参加者とともに食事をとり教授、助教授の方々および自分と同世代の医師たちとの交流は含蓄のある意見を聞け、また刺激を受ける貴重な機会となりました。翌14日、学会は正午からの開催となっており午前中は東の間ではありますが台南の町並みを見ることが出来ました。台南は台湾のなかで人口が4番目の都市であり、また台北の前の台湾の首都であり歴史的な見所の多い都市で、日本で言うところの京都といったところになると思います。台南の温暖な気候、おいしい食事、歴史的建築物にすっかり魅了され、大変有意義な時間を過ごすことができました。

学会会場の国立成功大学はやはり総合大学ということもあり東京医科大学と比べ格段に規模の大きい大学でした。折りしも同時に台湾泌尿器科総会が開催されており、台湾における学会の様子なども見学することが出来ました。

学会はまず浜松医科大学の麦谷荘一先生、国立台湾大学の Dr. Ho-Shiang Huang 両氏からの講演から始まり、計29題の演題が発表されました。浜松医科大学の麦谷荘一先生の「RETROGRADE ENDOSCOPIC MANAGEMENT OF IMPACTED URETERAL STONE」では最近のトピックスの一つである fiber-TUL を含めた結石の治療方針をフローチャート形式にまとめ、新しい治療である fiber-TUL の位置づけを明確にしていました。結石の内視鏡治療は日々進歩しており、これまで腎盂結石や上部尿管結石の内視鏡治療のスタンダードであった PNL ですが、内視鏡治療の中では比較的浸襲が大きく、より minimum invasive な治療である fiber-TUL がこの分野の治療に加わることにより結石患者の QOL に繋がることが期待されます。

自分の発表は3番目の演題でした。初めての英語



写真1 会場となった国立成功大学



写真2 学会発表の様子

での質疑応答でしたので始まる直前まで英語の原稿を見直したり、データを再確認したりと緊張と不安で気持ちが動揺した状態での発表となりました。PSA doubling time についての発表でしたが PSA 動態の有用性について若干の質問がありましたが無事終えることが出来ました。

印象に残った発表を紹介させていただくと、台湾からは Dr. Josh W.T. Kao の「CORRELATION OF UNILATERAL UROLITHIASIS WITH SLEEP POSTURE」であります。これは睡眠時の体位が上部尿路結石形成の左右差に影響を及ぼすかなどを検討した発表です。また Dr. Ying-Buh Liu が発表された「RETROSPECTIVE EVALUATION OF THE INCIDENCE OF URINARY TRACT INFECTION AFTER FLEXIBLE CYSTOSCOPY」があります。これは外来診療でよく使う軟性膀胱鏡の合併症に焦点を当てた発表など臨床の中でも患者の生活面に焦点を当てており日常

診療から問題意識を高く置いている印象を受け見習うべきところだと感じました。泌尿器科をはじめ外科系手術分野において最も注目を集めているロボット支援手術ですが、やはり台湾においても関心は高く、当教室中神先生の発表した「MALFUNCTION OF DA VINCI SURGICAL SYSTEM IS1200 MODE」では台湾の先生方の注目を集め、会場からは多くの質問が挙がっていました。また台湾からも Dr. Yu-Wen Huang の「COMPARISON BETWEEN CONVENTIONAL AND ROBOTIC-ASSISTED LAPAROSCOPIC PARTIAL NEPHRECTOMY, SINGLE CENTER EXPERIENCE」は、日本においてロボット支援下手術の症例数が最も多い東京医科大学でもまだ施行されていない腎手術での適応も行っており今後のこの分野での両国の発展が期待されます。他、基礎研究の分野での発表も多く会場でのディスカッションも盛んに行われていました。

初めての国際学会に参加でしたが、台湾の先生の英語力の高さ、プレゼンテーションの巧みさに感心し、自分の未熟さを痛感しました。国際学会の参加は、最新の知見に触れるだけでなく、プレゼンテーションの方法を学ぶ絶好の機会でもあると感じ、今後も積極的に参加していきたいと思いました。台湾は親日国家として知られていますが、それは今回の学会を通して感じられました。台湾、日本の交流の架け橋となる本学会の今後の継続、発展を願っております。今回、まだ若輩の私が発表する機会を得られたのは、日常の診療業務を終えられた後、根気よく私に臨床研究、発表などをご指導下さいました諸先生方のご尽力によるものであり、深謝いたしています。